



④避難情報の意味ととるべき行動

市が発令する避難情報には、危険性の度合いに応じて、「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」の3種類があります。

避難所は、「避難準備・高齢者等避難開始」を発令した段階で、主要な指定避難所を開設します。夜遅くなってからや、浸水・冠水してからの避難は危険ですので、早めに避難を終えることができるようにしてください。また、危険を感じる場合は、避難情報の発令を待つことなく、自らの判断で避難することも重要です。

危険性大

区分	とるべき行動
避難準備・ 高齢者等避難開始	高齢者や障害のある方、乳幼児がいる方など避難に時間がかかる方とその避難を支援する方は、避難を開始してください。避難場所への避難が難しいときは、近くの安全な場所に避難してください。 それ以外の方は、避難の準備を開始し、危険だと思ったら早めに避難してください。
避難勧告	すみやかに避難を開始してください。屋外が危険な場合は、屋内の高いところに避難してください。
避難指示（緊急）	ただちに避難してください。屋外が危険な場合は、屋内の高いところに避難してください。

避難情報の入手方法

避難情報は、通常のテレビ・ラジオ放送のほか、「宮崎市防災メール」や地上デジタル放送の「データ放送」でも配信します。

また、パソコンやスマートフォンでは、さまざまな防災に関する情報を入手できます。



⑤避難する際の注意事項

- 荷物は最低限必要なものをまとめて背負う … 水や食料、携帯電話、いつも飲んでいる薬などをリュックサックなどに入れ、両手が使える状態で避難しましょう。
- 原則徒歩で避難 … 大雨の中、自転車やオートバイで避難するのは危険です。
- 家族への連絡 … 外出中の家族がいる場合は、避難先を電話連絡するか、メモを残して避難しましょう。
- はきものに注意 … 道路などが冠水しているときは、長靴では中に水が入り、かえって歩きにくくなります。履き慣れた運動靴などで避難しましょう。
- 避難経路にも注意 … 知らない道や低い土地、がけ下、川沿いなどは避けましょう。冠水しているときは、安全を確認するため長い棒などを持っていきましょう。
- 要配慮者をサポート … 乳幼児や高齢者、障がい者などの避難を支援しましょう。

【お問い合わせ先】 宮崎市危機管理課
TEL:0985-21-1730 FAX:0985-25-2145

いざ! というときの避難行動



そのときあなたは どうしますか?

宮 崎 市

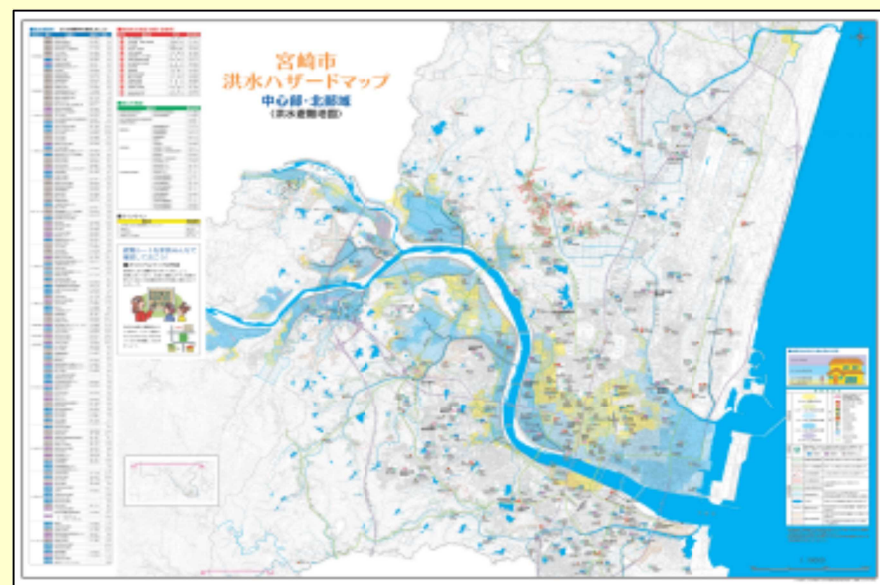
災害から命を守るためには、「身近にどのような危険があるのか」を知り、いざ！というときに「どのように行動するか」を具体的に考え、あらかじめ決めておくことが重要です。また、緊急時に適切で迅速な行動をとるためには、「判断の基となる情報をどのように入手するか」も大切な要素となります。

”もしも”のときのために、次の5項目をよく確認して災害に備えましょう。

①地域の災害危険箇所

地震・津波、洪水、土砂災害など災害には多くの種類がありますが、海岸線や山沿い、低い土地など、どのような災害の危険性が高いかは地域によって異なります。そのため、避難行動を考える際には、日常生活している場所がどのような場所であるかを事前に調べておく必要があります。

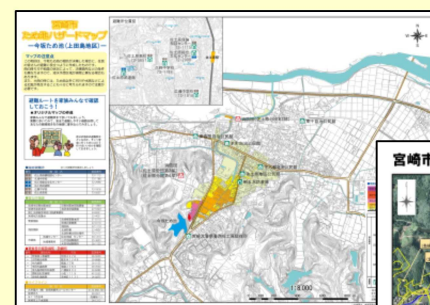
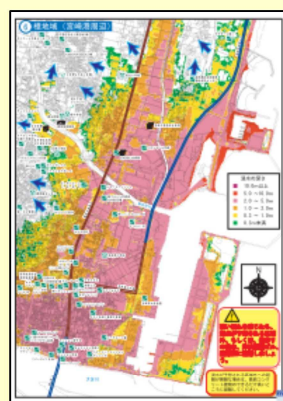
市では、被害が予想される区域や避難場所などの情報を記載した「ハザードマップ」を、「洪水」「津波」「ため池」「土砂災害」といった災害の種類ごとに作成し、公表しています。市のホームページにも掲載していますので、確認してください。



▲洪水ハザードマップは、「中心部・北部域」「南部域」「佐土原町域」「田野町域」「高岡町域」と、防災マップ（清武町域）に分かれています。



▲津波ハザードマップ



▲ため池ハザードマップ



土砂災害ハザードマップ▶



②災害の種類に応じた避難行動

避難行動は、屋外への避難である「立ち退き避難」と屋内での避難である「屋内安全確保」の二つに分けられます。災害の恐れが生じたときには、屋外に避難すべきなのか、屋内で安全を確保するほうが良いのかを、自ら判断しなければなりません。

安全な避難行動をとるためには、避難先の建物が倒壊する恐れはないか、避難先に向かう途中に、河川のはん濫や道路の冠水、土砂災害が発生する危険性はないかなどを確認することも重要です。

どちらの避難行動がより安全か、ハザードマップを参考に確認しておきましょう。



立ち退き避難 （水平避難）

自宅などから、公園などの指定緊急避難場所や市が開設した指定避難所、親戚・友人の家など、安全な場所に移動すること。



屋内安全確保 （垂直避難）

夜間の大雨時など屋外に避難する方が危険な場合に、自宅などの建物内に留まり、より高い場所などに移動することで安全を確保すること。

立ち退き避難が優先される例

○土砂災害など建物が倒壊する恐れがある場合 … その建物内にとどまることで身に危険が迫りますので、すぐにその場を離れて安全な場所に避難してください。

屋内安全確保がありえる例

○短時間で局地的な大雨の場合 … 下水道や側溝があふれ、建物に浸水する恐れがありますが、局所的に浸水しているところに近づかなければ、命をおびやかす危険性は低くなります。

○中小河川や内水のはん濫で浸水の深さが浅い場合 … 一時的な大雨により、中小河川がはん濫したり、雨水排水が追いつかず側溝の水があふれているときは、あわてて屋外に避難するよりも、屋内のより高いところに移動したほうが安全な場合があります。



③避難場所と避難経路

どこに避難するかをハザードマップなどで確認し、避難場所やそこまでの経路を家族で歩いて確認してください。

また、災害時には、通行できなくなっている場所がある可能性もありますので、避難場所と避難経路は複数を用意しておきましょう。



適切で迅速な避難行動は、自然災害から「命を守るための行動」です。